FD 学外セミナー参加報告書

氏名： 市野泰和

所属/職名：経済学部

参加セミナー名： 「大人数の講義型授業で学生を授業に巻き込むための工夫」

セミナー参加日時/場所： 2017 年 7 月 21 日（金） 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス

■セミナー内容・所感・授業や本学への活用について

立命館大学，教育開発推進機構教授の沖裕貴先生による講演だった．演題である，大人数の講義型授業で学生を授業に巻き込む工夫についての話の前に，なぜアクティブ・ラーニングが大学で重要になってきているかの解説があった．それは，大学入試が変わって，センター試験がなくなり，そのかわりに，思考力や判断力，表現力を問うような「学力評価テスト」が行われるため，それによって高校の教育も，アクティブ・ラーニングを志向したものに変わっていくからである，ということだった．

また，アクティブ・ラーニングの失敗事例や，アクティブ・ラーニングの未解決問題なども紹介され，学習者の適性によって教え方の効果が異なるため，アクティブ・ラーニングはすべての学習者に同じ効果をもたらすものではない，という話だった．ただし，「学生の多様化」に対応するという意味においては，通常の講義に加えてアクティブ・ラーニングを導入することは好ましいということである．

大人数の講義型授業で学生を授業に巻き込むための工夫としては，次の 3 つが取り上げられた．それは，（1）ピア・サポーターを使う，（2）ペアワークやグループワークを行う，（3）反転授業を行う，である．

（1）については，甲南大学でも LA の制度があるが，私の担当科目は理論であるため，LA の使い道がわからないと思っていた．しかし，他大学の例で，経済学部の理論科目において，ピア・サポーターがオフィス．アワーを実施しているという例が紹介されており，参考になるかもしれなないと思った．すでに甲南で LA を使っている同僚にも話を聞いて，積極的に取り入れることも考えていくつもりである．

（2）については，ペアやグループでで話し合ったあとの意見表明において，クリッカーや新しいシステムを使わなくても，MyKONAN の「クラスフォーラム」に，授業中にスマートフォンで自分の答えや意見を投稿させ，それをその場でみんなで見たりる，ということができるかもしれないと思った．

（3）については，きちんと予習をさせるためには，予習をしておかなければ当日のグループでの話し合いなどについて行けないような教材を準備する必要がある，という話が印象的だった．

アクティブ・ラーニングは，毎回の授業で，90 分すべてで行うのではなく，できる範囲で取り入れるだけでも大きな効果がある，ということを何度も強調されており，勇気づけられた．